

**IOSCO による市中協議書**  
**「社債による資金調達過程における利益相反に係るガイダンス」**  
**公表について**

証券監督者国際機構 (IOSCO) の代表理事会は本日、IOSCO メンバーが社債による資金調達過程における市場仲介者の役割から生じる利益相反や関連するコンダクトリスクに対応することに資するガイダンスを提案し、これに対するコメントを求める。

利益相反や関連するコンダクトリスクは投資家の信頼を損ない、発行者の資金調達にとって有効な資本市場を弱体化させかねない。規制当局がこのような問題について認識し対処する際に役立つよう、IOSCO は本日、[社債による資金調達過程における利益相反や関連するコンダクトリスクに係る市中協議書](#)を公表した。

とりわけ、本市中協議は社債市場における分散台帳技術 (DLT) の利用と、利益相反への対処のための利用を含めた当技術の活用に伴う潜在的なメリットとリスクについてコメントを求めている。

本市中協議書では、資金調達過程における、市場仲介者の役割が利益相反を招きうる主要な段階について説明する。本ガイダンスは、資金調達過程における以下の主要な三側面に応じて区分化された八つの対応策から成る。

- ・ 社債の価格決定とリスクマネジメント取引
- ・ 投資家が入手可能な情報の質
- ・ 社債の配分

本ガイダンスは伝統的社債に焦点を当てる一方、IOSCO メンバーが他の債券による資金調達について考慮する際にも役立つと考えられる。

本ガイダンスは、二段階で構成された資金調達における利益相反に係るプロジェクトの第二段階である。第一段階は株式の資金調達過程について、[株式による資金調達過程における利益相反や関連するコンダクトリスクに係る最終報告書](#)を 2018 年 9 月に公表している。

IOSCO は、本市中協議書に対するコメントを 2020 年 2 月 16 日まで募集している。

(以 上)